

市長就任（四期目）に当たっての記者会見の記録

日 時	令和 6 年 8 月 28 日（水）14：00～14：30
場 所	岩見沢市役所 3 階 会議室 3-5
記者数	7 人

（市長）

このたびの市長選挙におきましては、改めて市長という立場を得ました。これまで積み重ねてきたまちづくりに一定の評価をいただいたものと受け止めております。ただ、選挙結果という点に関しましては、1,296 票差ということも含め、大変厳しく受け止めております。と同時に、改めて責任の重さを感じているところでございます。

4 期目につきましては、引き続き市民生活の質の向上と、地域経済の活性化をまちづくりの大きな目標に、市民本位の市政、市民のための仕事に邁進してまいりたいと考えております。

また選挙期間中に訴えてまいりました、新しい市立総合病院の建設への道筋をつけること、また、冬の暮らしを守るための除排雪の維持・充実、そして子育て支援の充実などを着実に進めて、住みやすい、暮らしやすい岩見沢を作るために努力してまいりたいと考えております。

また、私自身が選挙活動中を通じていろいろとお聞かせいただいた意見や、多くの課題に対しては、スピード感を持って、9 月末に予定しております議会の対応などと並行して、課題への対応、整理を進めてまいりたいと考えております。

引き続き、記者の皆さまにはどうぞよろしくお願いいたします。

質疑応答

（北海道新聞）

選挙結果について厳しく受け止めているというお話がありましたが、相手の候補に投げられた票の要因、そこはどのように分析をされていらっしゃいますか。

（市長）

まだ詳しく要因分析ができているわけではありませんが、1 つは、自分自身がこれまで行ってきたことに対する評価の裏返しというか、選挙活動中に特に感じたのですが、これまでいろいろとやってきたことが、あまり伝え切れていなかったという点は、本当に反省しています。

例えば、お話するなかで「それはこういうことでやっているんです」「こういう取り組みを実はしているんです」というようなケースもあったので、そういった意味では、市民の皆さまに対する情報提供というか、発信というか、そういう点ではまだまだ努力の余地が多分にあるなと感じました。

(北海道新聞)

その結果を踏まえて、この秋にはまたレビューもありますけれども、取り組んでみたい、新たにこういったことをやってみたい、という施策はありますでしょうか。

(市長)

1 番は、今、現在進行形の市立病院の建設について、これからどういう体制になって、どういう医療を提供していくかとか、どういう病棟で、安心して治療を受けられる環境がこういうふうを整えられていきますとか、そういったことをしっかりお伝えすることも含めて、その道筋をできるだけ早くお示ししたいと思います。

それから、今回特に思ったのが、市民の皆さまが願っていること、思っていることと、市役所が行っていることの間に、若干のミスマッチみたいなものを、実は私自身感じていまして、例えば先を見ての投資という考えでやっていたものと、市民の方が思っていることとは、少しミスマッチがあるのではないかという認識がありました。そういったことも総括しながら、次に向けていきたいと思います。

(プレス空知)

今お話のあったミスマッチというところですが、いろいろとあったかと思いますが、その中でも1つ特筆するものがあるとすれば、こういったものがありますでしょうか。

(市長)

特筆すべきといえますか、もっとうる足元の、例えば生活課題だとか、そういったところが原点に返ってやはり重要なのだと思いました。

また、先に向けての投資という意味では、例えばスマート農業ですとか健康づくりですとかのように、一定の成果を市民の皆さまに還元できているものと、取り組んでいるものが形として還元できていない分野があるので、そこはやはり整理していく必要性はあるのかなという気はします。

(プレス空知)

新市立病院ですが、道筋をつけていくというところで、この後、年度内にいろいろなスケジュールが元々あったかと思いますが、これは何か改めて見直しとか、着実に進めていくとか、何か変更があるとか、今のところでありますでしょうか。

(市長)

今のところ、作業スケジュールに変更はないと考えています。ただ、お示しの仕方とか、そういったところを、建てる建てないだけの議論ではないので、建てた後にこういう医療を受けることが可能になりますとか、そういったことも含めてきちんと説明をさせていただくのと、建設に向けていろいろと整理しなければならない諸課題がたくさんありますので、それを一つずつクリアにしていって、一つずつ道筋を作っていきたいということになります。

(プレス空知)

もう1点、選挙結果ですが、今回の投票率、これが戦後2番目の低さとなってしまいました。5割以上の市民の方が投票所にも行かなかった、期日前投票にも行かなかった、と考えると、半数以上の市民からは信任を受けていない、イエスでもノーでもないという状況の選挙になってしまった、ということに対しての受け止めといいますか、今後どう市政を進めていくかに何か影響といますか、ご自身の中の考えや思いはありますか。

(市長)

投票率に関しては、今回は選挙管理委員会でも、移動投票所の箇所を増やしたり、日数を増やしたり、そういう努力をして、より投票しやすい環境に向けては取り組まれていたかと思うのですが「市長選があるんですか」というようなことを言われもしたので、投票しやすい環境作りと合わせて、私自身が反省するところとすれば、やはり市政に対するその情報の提供というか、そういったところがまだまだ十分ではなかったというのがあります。

それと、コロナ禍という期間があって、特に前回が無投票だったということも含めて、実質8年ぶりの選挙ということでは、なかなか投票率の向上には結び付かなかった、もっと大きな要因としては、全国ベースでいろいろな課題があるとは思いますが、私自身は市民の皆さまとの信頼が1番大事だと言っているんで、改めてその信頼をいただけるよう、情報提供のあり方も含め、これから取り組んでいきたいと思っています。

(プレス空知)

新市立病院の建設はこの4期目スタートの1番の大きな課題ということになるかと思いますが、その他に挙げているこども・子育て、子育て支援の充実については、もうかなりメニューとしてはこなしているのかなと思うのですが、さらに充実ということを公約として掲げられたというのは、何か今年度中ないしは次年度から考えていらっしゃるメニューはあるのでしょうか。

(市長)

それも全体で協議してからの話になりますが、例えば保育料の負担軽減だとか、分野ごとにしっかり一つずつ見ていくことは必要だと思っています。また、こども未来課、こども家庭センターができて、今いろいろと検討を進めてもらっていますので、その中でどういう方向性が出てくるのかというのは、非常に私自身も期待しているところです。

(プレス空知)

その中で、国の施策として検討が進んでいて、市町ではもう先行して進めている、小中学生の給食費の無償化というところがあるのかもしれないと思ったのですが、それについて岩見沢市は今のところはまだ大きな動きは見せていないと思います。内部では検討しているのかもしれませんが、具体的には見えてきていないと思うのですが、その辺は、こども・子育て支援の充実ということで、市長ご自身としてはメニューの一つとして考えていらっしゃいますか。

(市長)

学校給食の無償化については、国のこども子育てプランに明記されているんですよね。私もそうならいいなとは思っていますし、できるだけそういうことが岩見沢のまちで実現できるいいなとは思っていますが、現実問題として、今、食材費が高騰している中、おそらく今年の給食費は、父母の方からいただいたものから 5,000 万円以上足りないような状況になってきていますので、総事業費的には恐らく 5 億 5,000 万円とか 6 億円ぐらいのベースになる。食材費の分をすべて無償化すると約 3 億円以上の持ち出しが毎年発生するというのは、かなり大きな事業になりますので、自分としては岩見沢のまちでも早く実現したいと思っていますが、財源的なことも含めて考えると、やはりしっかりとした検討が必要だと思っています。

(HBC)

病院の関係でいろいろとお話いただきましたが、市長からは除排雪の関係もアピールしていたと思います。岩見沢の除排雪はかなり充実していると思うのですが、さらに、ということになると、どのようなことをイメージしていらっしゃるのでしょうか。

(市長)

まず維持をしていくということが重要だと思っています。やはりどうしても充てられる財源はしっかり確保しなくてはならないので、そのことによっていろいろと財政指標で影響が出てくるところもありますので、そこを見極めながらですが、今のレベルは少なくとも維持していきたいと思っています。あとは総合的な雪対策のところで、高齢化も進んでいますし、そこはこれからのオータムレビューや予算議論の中でいろいろと出てくると思っていますが。

今回、除排雪の拡充と言って、今まで岩見沢市はこういうふうに取り組んできていると言ったことに対して、おおむね市民の皆さんからは、頑張ってくれている、というような受け止め方をしているというのは、ある意味心強かったです。ですから、それをしっかり維持していくということはやはり重要だと思います。

そのために機動力は、除排雪の業者の皆さんも人手不足で苦しんでいますし、そういったところは業者の皆さんのお話も聞きながらだと思っていますが、より省力化していくという意味では、除排雪の運行管理システムを導入して、より省力化をして効率性を上げていくということも一つの方策だと思っています。一晩で約 1,000 キロの除雪を行うにはどうしても機動力が必要になってきますので。雪の量が多いと、どうしても出動回数が多くなってくる。ですから、2 年前、9 メートルの降雪の時には 43 回出ていて、地球を 1 周して戻ってくるだけの除雪を行ってきましたから。

岩見沢の冬はやはり災害リスクなんです。災害と言われないように影響をいかに抑え込めるかというのは、やはり市民の皆さんと、冬の暮らしもそうですし、冬の経済もそうですし、経済活動にも大きな支障が出るので、そこを維持していくというのは、引き続き頑張っていきたいと思っています。

(朝日新聞)

今回、市長は自民、公明、立憲民主の、地方組織の推薦を受けて選挙戦に臨みましたが、現状、国政の問題で裏金問題ですとか、総裁選は間近ですが、与党側への逆風ですとか、立憲も含めて、全体に、政党政治への政治不信が根強く有権者の中にあるかというような現状ですが、そういった意味で、今回、政党の推薦を受けたということが何か逆風として感じられた、ですとか、選挙戦でそういった受け止めなど感じる事があれば、教えていただきたいです。

(市長)

私自身は当然無所属ですし、あえて言えば市民党ということなのですが、ただ、ご支援いただける、ご理解いただける、そういった意味ではチーム岩見沢、オール岩見沢だと思っていますので、政党関係ですと、自民、立憲、公明からいただきましたが、そのこと自体が、何かこうマイナスだとか、逆風がというよりも、チーム岩見沢、オール岩見沢として頑張っていきたいということの現れだと思ってやってまいりました。

(北海道建設新聞)

市長は、市民生活の質の向上、地域経済の活性化ということを常に目標に掲げられていますが、選挙戦を経て、先ほどミスマッチというような言葉も出てきましたが、そういったことを踏まえて、この4年間で具体的に、例えば新たに実行したい、検討したいということは何がありますでしょうか。

(市長)

それもこれからの議論なのですが、先ほど申し上げたように、9月議会の対応も含めて、それと並行して来年の予算も含めて、しっかりそこは熟慮した上で取り組んでいきたいと思っています。

(北海道建設新聞)

もう1つ、先ほど市立病院の建設の件を最重要課題として取り組まれるというような話でしたが、その先、将来を見据えて、次のハード事業でこの4年間でご検討されていくことは具体的にどういったことがありますでしょうか。

(市長)

いろいろと、都市機能といいますか、都市施設としてやっていかなければいけないところはいくつかありますが、ただ、もう既に栗沢地区では来年4月から義務教育学校が開設します。その新しい校舎の建設に向けての検討も進めていくことになっていますし、それ以外にもやりたいことはたくさんありますが、ただ、ハード面でいくと、やはりスマートインターチェンジはぜひその次の段階に早く進めるように取り組んでいきたいと。スマートインターチェンジができると、新しい市立病院の建設予定地の中央労災病院の場所は、高速道路を使うことによって救命率をかなり大きく向上させることになるので、まさにその命の道としての高速道路の機能をより果たす

役割もありますし、物流についてもそうですが。

（北海道新聞）

先日、市長にお話を伺った時に、結果を受け止めた上で、市民の方の声を聞く場を早急に再開したいということをおっしゃっていましたが、具体的にいつぐらいから始めて、という計画があれば教えていただきたいです。

（市長）

地区協単位ではそういうお話はいつもしているので、ご要望があればいつからでもというところで。ぜひご要望していただければと思いますが。集約はさせていただいて、今年度の希望のところはもう既にあるので、そういったところと調整ができれば。

（北海道新聞）

今、財政状況もいろいろな建設事業がある中で厳しくなっているということで、統廃合を含めて、公共施設のそういった意味での圧縮を行っている最中ですが、そういった中で、管理計画が来年、再来年から第2期計画に入りますが、市長としてはどういう方針で、こういったものは残して、どういうものは統廃合していこうというような、ビジョンといたしますか、そういったものはどうお考えでしょうか。

（市長）

一つは、類似施設で再編できるものについては、できるだけ再編していく必要があると考えています。ただ、地域性の問題もあるので、そこはよく話をしてからと思っていますが、総論的にいうと、かなりの床面積を抱えたままになっていますので。そうすると、確かに頻度は低いかもしれないけれども、お使いいただいているところもあるのですが、そのことによって出ていく経費、維持補修費、管理経費等々もあるので、そこはできるだけスリムにして集約して、その予算は別の方に振り向けた方が、より財政的にという側面も確かにありますが。

中長期財政計画で、今回10年間で122億円のマイナスで、前はマイナス133億円をマイナス4億円ぐらいまで縮小したはずなので、そこはなんとか頑張ったのですが、今回はマイナス122億円で。その中で、歳入を増やすということよりは、歳出を抑え込んでいくという方向がどうしても強く意識せざるを得ないので、そういった意味では、やはり公共施設は一定の整理をしていかないと、経費ばかりかかってしまうと他に使える予算が限られてくることになるので、あまりそれは望ましい姿ではないという問題意識は常々持っています。

（北海道新聞）

一方で、地域にある施設などは、かかるコストだけではなくて、例えば自助共助の拠点になるとか、そういった意味でも、目に見えない部分、コストにならない部分で大事というところもあるかと思うのですが、その辺りとの兼ね合いといたしまして。

(市長)

そこは再編統合して、集約して、どこか1つの拠点化を図りながら、ある程度の広域利用でできるかできないかとか、その代わり、外れたところについては廃止をしていくだとか、それから、そこで必要なものであればダウンサイズして減築をしてお使いいただけるかとか、そういったことも柔軟に対応していかなければならないですし、また、市の施設として保有しているので、例えばそれを地域の方に譲渡するので地域の皆さんで、と言っても、最終的に大きい施設が多いので、最後、解体の問題があるわけです。ですから、ある程度譲渡してお使いいただくにしても、いろいろなやり方があると思いますが、解体についてはやはり市が責任を持って解体をするということをベースにしながら、柔軟に協議をしていくことが必要になってくるのではないかと思います。

(注) この記録は、重複した言葉遣いや明らかな言い直しがあったものなどを整理した上で作成しています。(作成：総務部秘書課広報室)